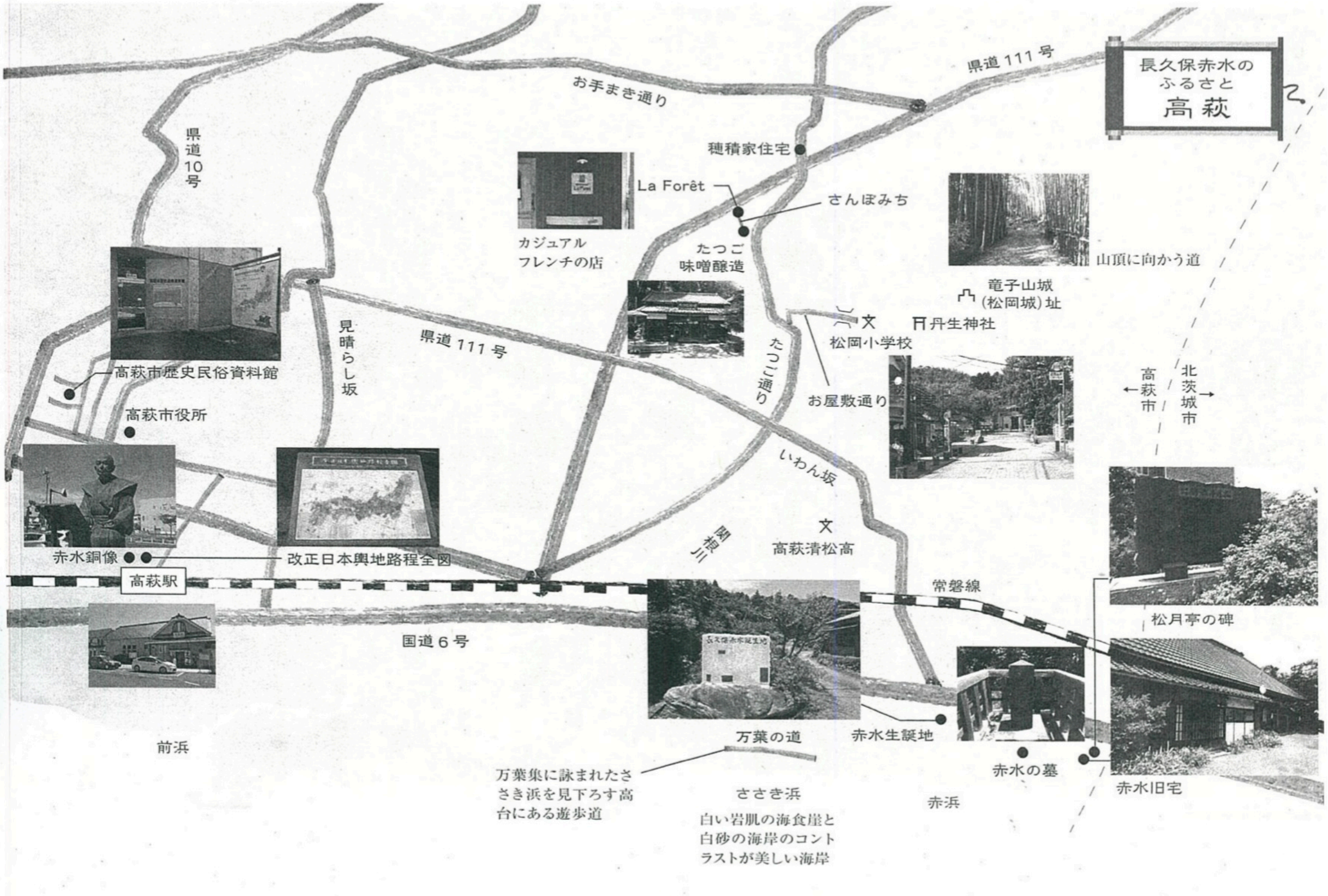
長久保赤水 特集



赤水のふるさと

高萩 町歩き

赤浜で生まれ育ち 晩年を過ごし眠る

長久保赤水のふるさとは茨城県高萩市。北は北茨城市、南は日立市の十王町にはさまれ、東は太平洋、西は阿武隈山地が連なっている。いわき市平からは50㎞ほどで、常磐道を使うと四、五十分で行ける。六月中旬、高萩を訪ね、赤水ゆかりの地を中心に歩いた。

常磐道の高萩ＩＣ（インターチェンジ）を降りて、高萩駅に向かう。駅前に赤水の銅像がある。東日本大震災で高萩も大きな被害を受けた。そこで、逆境から立ち上がった赤水を讃えようという動きが本格化し、復興のシンボルとして地元有志が赤水の銅像と地図「改正日本輿地路程全図」の陶板の制作を考えた。市民に寄付金を募り、震災翌年の文化の日に除幕式が行われた。銅像は彫刻家の能島征二さんの作。

歴史民俗資料館の特別展示室には「改正日本輿地路程全図」など、赤水の資料が展示されている。子孫から高萩市が寄贈を受けた資料で、地図や絵画、文書・記録、典籍（書物）、書画・器などがあり、うち六百九十三点がこの七月にも国の重要文化財に指定される。ほかの展示室では、東京大学理学部植物教室の基礎を築いた松村任三（じんぞう）など郷土の先人も紹介している。

赤水の生家は赤浜の岩城街道（水戸と平を結ぶ）沿いにあって、赤水誕生地の碑が建っている。代々、庄屋をしていた家で、八歳までそこで過ごし、父親が分家したのを機に赤水旧宅に移った。岩城街道と国道6号と交わる辺りで、少し行くと北茨城市になる。

旧宅の庭には松月亭の碑が建っている。松月亭は赤水の隠居所の名で、水戸藩主の徳川治保がお国入りし、領内を巡遊する際、赤水宅に立ち寄ることになり、急いで造られた。赤水がこ